

練習問題

次の文章を読んで、後の問に答えよ。

ある所に強盗入りたりけるに、弓取りに法師を立てたりけるが、秋の末つかたのことにて侍^a

秋の終わりのころ

りけるに、門のもとに柿の木ありける下に、この法師、かたて矢はげて立ちたる上より、うみ^(注2)

一本の矢を弓につがえて

柿の落ちけるが、この弓取りの法師が頂に落ちて、つぶれてさんざんに散りぬ。この柿の、ひ

めちやくちやに散ってしまった

やひやとしてあたるを、かいさぐるに、何となくぬれぬれとありけるを、はや射られにけりと思

手でまさぐると

何かはわからないが

ひて、臆^bしてけり。

かたへの輩^(注3)に言ふやう、「はやく痛手を負ひて、いかにも延ぶべくも覚えぬに、この首討て」

(注3) ともがら

すでに傷を負って

どうしても生き延びられそうにも思われないので

と言ふ。「いづくぞ」と問へば、「頭^{かしら}を射られたるぞ」と言ふ。さぐれば、何とは知らず、ぬれ

どこ(を射られたの)か

かしら

一面に

わたりたり。手に赤く物つきたれば、げに血なりけりと思ひて、「さらんからに、けしうは

濡れている

あらじ。ひき立てて行かん」とて、肩にかけて行くに、「いやいや、いかにも延ぶべくも覚え

(法師を)肩にかついで行く

ぬぞ。ただはや首を切^dれ」と、しきりに言ひければ、言ふにしたがひて打ち落としつ。

さて、その首をつつみて、大和の国へ持ちて行きて、この法師が家に投げ入れて、「しかじか

法師の家に

(法師は)この

言ひつること」とて、取らせたりければ、妻子泣き悲しみて見るに、さらに矢の跡なし。

ように言っていたことだよ

〔出典〕

『古今著聞集』

〔重要語句〕

- はやく
- いかにも
- 覚ゆ
- いづく
- 手
- げに
- さ
- けしうはあらじ
- さらに
- しか
- 悔ゆ
- かひなし
- うたてし
- かく

「むくろに手ばしおひたりけるか」と問ふに、「しかにはあらず。この頭の事ばかりをぞ言ひつる」
身体に傷を負ったのか

と言へば、いよいよかなし^fみ 悔ゆれどもかひなし。

ますます悲しみ後悔するけれども

そうではない

臆病はうたてきものなり。⁵ さ程の心ぎはにて、かく程のふるまひしけんおろかさこそ。
情けないものである

〔古今著聞集〕

(注) 1 弓取り——弓を持った見張り役。

2 うみ柿——熟した柿。

3 かたへの輩——傍らにいる同輩。仲間。

問一 傍線部 a) f の動詞について、活用の行・活用の種類・活用形を答えよ。

e	行	活用	形	f	行	活用	形
c	行	活用	形	d	行	活用	形
a	行	活用	形	b	行	活用	形

〔古典常識〕
 ○大和の国